

さとう じゅんいち
佐藤 淳一
磐梯町長



共創・協働のまち磐梯町

～自分たちの子や孫たちが暮らし続けたい魅力ある
まちづくり～



上空からの磐梯町

1. 磐梯町の概要

磐梯町は、東京都心から北へ約 200km、会津盆地の東北部に位置し、磐梯山を間近に仰ぎ見る山紫水明の地です。平安時代初期の名僧「徳一（とくいつ）」によって建立された国指定史跡慧日寺跡（えにちじあと）を有する会津仏教文化発祥の地として歴史と伝統・文化を受け継いできた町です。

気候は、夏は比較的涼しく過ごしやすい一方で、冬は豪雪地帯として知られ、星野リゾートネコマ マウンテンスキー場を有しています。冬季には国内外から多くのウィンタースポーツの愛好家が訪れます。

磐梯山の麓に広がる扇状地と名水の水源に恵まれた磐梯町では農業も盛んであり、そばや米、トマトなどの農産物は町内外で高く評価されています。

2021 年からは豊かな環境資源を後世に残すため、土づくりなどを通じて農薬・化学肥料の使用を低減し、環境負担を少なくする環境保全型農業による町の新農産物ブランド「磐梯さとやまの慧（めぐ）み」の栽培に着手しています。2023 年に開催された「オーガニック・エコフェスタ 2023-身体に美味しい農産物コンテスト」では、磐梯さとやまの慧みの生産者のサツマイモが最優秀賞を受賞しました。



「磐梯さとやまの慧み」



史跡慧日寺跡金堂

2. デジタル技術「も」使い、町民すべてがしあわせになる町づくり

磐梯町は、人口約 3,200 人の小規模な自治体でありながら、先進的なデジタル変革に取り組む町として知られています。2021 年 7 月に発表された「磐梯町デジタル変革戦略第 2 版」では、磐梯町のデジタル変革を「自治体・町民等が、デジタル技術も活用して、町民本位の行政・地域・社会等を再デザインすること」と定義し、「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」をデジタル技術の活用に焦点をあてた「Dx」ではなく、変革に焦点をあてた「dX」の意識を持って、町民本位の行政・地域・社会等を実現するため様々な施策に取り組んでいます。

町民本位の自治体を目指すためには、実際に業務にあたる役場の改革も不可欠です。ICT化による業務の効率化やコスト削減などに加え、職員のテレワークを可能とすることや、職員のライフステージに合わせて働き方を選べる、働きやすい役場を目指しています。2024年からは、庁舎の一部でフリーアドレス制を導入し、いつでも・どこでも・だれとでも働ける環境づくりを目指しています。

さらに、2025年4月からは、磐梯町の使命（Mission）である「町民すべてを幸せにする～誰一人取り残さない共生社会の実現～」を実現するため、「磐梯町町民の幸せプロジェクト」が始動しました。このプロジェクトは、従来の枠組みを超えた横断的な組織体制で運営されており、「しあわせ・まちづくり再デザイン特命係」「行政経営・働き方の再デザイン特命係」「共創・協働の再デザイン特命係」という3つの特命係が、さまざまな分野の専門家の知見を活用しながら、持続可能な共生社会の実現を目指しています。

3.名水のまち磐梯町

磐梯町は、「名水のまち」でもあります。町の北側には磐梯山と、猫魔ヶ岳があります。この2つの山には噴火で流れ出た溶岩地形や地層があり、雪解け水や雨水が染み込み、滝や湧水を作り出しています。また、山々には豊かな森が広がり、堆積した落ち葉は雪解け水や雨水を蓄えやがて豊かな土となり、天然のろ過装置となります。磐梯西山麓湧水群は昭和の名水百選に選ばれ、なかでも、猫魔山系の火山活動によって出来たといわれる龍ヶ沢湧水は代表的な湧水のひとつです。

巨石の間からこんこんと湧き出る湧水は、早魃（かんばつ）に際しても決して枯れることがないと言われ、江戸時代には会津藩の命により、大規模な雨乞いの儀式が行われた場所でもあります。

磐梯町の水道水にはこの磐梯西山麓湧水群の水が大部分で使われており、蛇口から毎日名水が出てきます。榮川酒造株式会社や株式会社シグマなど、水質の良さと豊富な水資源を求める企業が、磐梯町を拠点に操業しています。

2022年11月には立正大学河野教授によるおいしい水と健康な水の指標に基づいた水質調査が行われ、磐梯町の龍ヶ沢湧水と大清水の水はおいしい水の指標OI（オーアイ）値が龍ヶ沢湧水27.1と大清水25.4という結果になりました。これは、おいしい水と判断される指標OI値2.0のおよそ13倍の数値となり、全国的に見ても群を抜いています。この名水をボトルリングした「ばんだいの天然水」が、道の駅ばんだいや県内の一部スーパー等で販売されています。



龍ヶ沢湧水



ばんだいの天然水